

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 21年 2月 24日
事業所名	アバンセグループホームこころ 1ユニット
事業所番号	2372201943
記入者名	職名 施設長 氏名 竹下 年文
連絡先電話番号	0586-87-3030

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5項目の運営理念を掲げ、ここは私の家と言ってもらえるホーム作りを目指している。その人らしい生活が送れるよう日常生活にそれぞれの趣味思考を取り入れたケアに努めています。	○	内部研修会にて、地域との交流の関わりを大切に、地域に根付く地域密着型理念の話し合いを行い、全職員で考え検討中です。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・事務所・リビングにて理念を掲示している。毎日の朝礼と月1回のミーティングにて理念を共有し職員は日々理念に沿った取り組みの計画をたてて介護を実践しています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の見学に来られた方へ、分かりやすく資料を参考に説明をしています。また、常時閲覧できるように玄関に掲示してあります。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事開催時には、地域にチラシを配布し参加をお願いしていますが、時間的に参加して頂けるのが難しい現状です。散歩時に挨拶を交わすことで、地域の方からお花や野菜を頂いたり、野菜の作り方を教えて頂いています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入。広報配達時に地域の情報連絡があります。ホーム主催の焼肉パーティー クリスマス会に、地域の方の参加があり、町内会長が、ハーモニカ演奏を披露されました。介護相談受付の看板を設置、相談に訪れる方もあります。子供110番にも加入しました。	○	小学校の通学路に面していることもあり、施設の特長（24時間職員がいる）を活かして子供110番に加入し地域の一員として貢献に努めています。これを機会に小学校との交流に繋がるように努めていきたい。夜間施設の周りは照明が少なく暗いので、施設の外灯により防犯にも貢献しています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護相談受付中の看板を設置後、相談の問合せや介護相談にみえます。運営推進会議の中で、ホームとして何が出来るのか、地域の方から意見を頂き話し合いの場を設けています。災害時等施設を開放することで、避難場所の提供が出来るように検討中です。	○	施設を開放し、見学や認知症に関する相談など積極的に受け入れ地域に貢献しています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施する意義を理解し、質の向上に向けて全職員で取り組み前回の評価を元に、管理者・職員で話し合いの機会を設け「気づきノート」を取り入れることで改善に取り組んでいます。	○	外部評価の指導を元に利用者及び家族の声や意見に耳を傾け敏速にケアの向上に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回テーマを決めて質疑、応答を行っている。内容として活動報告書を行い、家族、地域、高年福祉課、地域包括センターからの意見や要望を取り入れ活かしている。議事録を作成し参加者全員に配布しています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新認定や生活保護利用者の相談等に、高年福祉課・福祉こども部高年福祉課に相談に出向くことで、アドバイスや多方面の情報を提供して頂くことで連携を図っています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている利用者がおられる。地域権利擁護ならびに成年後見制度の理解に努め職員が詳しく学べるように、毎月の勉強会に取り組んでいきたい。	○	外部研修を予定しており、積極的に参加していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや日々のカンファレンスを活用してトラブルへつながる前に情報の共有をしている。虐待は全職員が認識しており身体拘束はオープン以来一度もない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約ならびに解約(退所)にあたり利用者、家族等の不安がない様、十分な説明を行い疑問点があれば再度説明の上、理解納得を頂いてから契約しています。</p>	○	<p>入所に当たっては管理者やケアマネージャーが面接を重ね理解と納得に努めている。事前見学時におやつ(10時・15時)を一緒に召し上がりながら馴染んで頂き希望があれば体験入所もできます。これらのことを踏まえ職員の意見も取り入れています。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や不満、苦情を聞き入れる機会を常に設け、管理者や職員はこれらを表出しやすい環境作りに努めている。職員間で情報の共有ができるように心がけています。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>以前は連絡帳にて面会時に最近の様子・受診・行事等見てもらっていたが、家族と疎遠又は身寄りなく面会者が限られてきた為、面会の折に口頭にて報告を行なっています。体調に変化がある時は、迅速に対応して家族に報告をしています。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見・質問・要望・心配事がある時には、話しやすい環境を作り前向きに活かすように努めています。また、運営に反映できるアドバイスをいただいた時には改善を行うようにしています。</p>	○	<p>玄関に家族・面会者の意見ノートを設置しており、苦情・意見等あれば敏速適切に対処しています。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティングに管理者・ケアマネージャー・本社担当マネージャーが出席し話し合いの場を設けています。勉強会や研修を通して職員の意識向上や質の確保に役立てて運営に反映されています。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態や生活を支援するために、職員の勤務体制や十分な人員配置を行っています。状況の変化や要望などに柔軟な対応ができるように常に努めています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動のある場合は、入居者へのダメージを防ぐために、職員の働きやすい環境作りを心がけています。また、十分なケアが行えるように、職員同士協力をしています。	○	管理者は職員が働きやす環境作りに務め、日常の言動・勤務態度など把握に努め個々の思いを汲み取り話し合う機会をもうけ職員の声に耳を傾ける努力をしています。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた外部研修を積極的に取り組んでいます。外部研修にて習得した知識を職員間で共有し、日々のケアに活かしている。新人職員の研修は2ヶ月間、そのレベルに応じて先輩職員の指導の下約1月間日勤を経験後、先輩職員指導(3回)夜勤に入ります。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム連絡協議会に加盟しているが参加までには至っていない。尾張ブロック会議に参加した事で互いのグループホームを訪問する機会を持ちネットワーク作りや勉強会を視野に連携を強めていきたい。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常に会議や面談等の話し合う機会を持ち、意見や不安・不満を表出できる環境を作っています。休憩場所が確保できず、心身が完全にリフレッシュできない時があるので、職員の意見を聞き検討して行きたい。	○	日ごろ職員の言動把握に努め問題があれば共に考え解決する方法や話し合う場を設けています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	外部研修は、各自の希望とレベルに合わせて参加している。研修を受ける場合は出勤扱いとして、研修内容を持ち帰り、ミーティングにおいて勉強会を開き活かしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があつてから、本人や家族よりゆっくりと時間をかけて詳しく話をお聞きして、相手を尊重して要望を把握できるように努めています。入居されてからも納得して安心していただけるように努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談は随時受け付けています。グループホームの理念・生活等の説明をして不明な点や質問に答えています。また、時間を設けて本人の安心と家族の思いを受け止められるようにゆっくりと話のできる環境を整えています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としているサービスをよくお聞きし、必要に応じて臨機応変に対応できるように努めている。グループホーム以外のサービス利用の話を勧める場合もあります。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況と家族の要望に沿い、すぐに利用を開始せず、何度か通っていただくサービスを提供することで、徐々に安心して過ごせる環境作りをしています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で、入居者の歩んできた人生を伺い共感をすることで信頼関係を築き、家庭的に安心して過ごしていただけるような環境を作り、一人ひとりの人格を尊重した対応をしています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とはイベントや暮らしぶりが共有できるよう話し合いの場を心がけています。グループホーム行事等に家族の方が参加しやすい環境を作り、喜怒哀楽全てを持ち合わせられるように努めています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係がよりよいものになるように支援を行い、家族の方との外出の際、安心してできるように家族と職員が双方で情報の共有をしています。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた友人との関係が途切れないように支援を行い、来訪も歓迎しています。また通いなれた美容院等などへも引き続き通えるよう支援をしています。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションを通じて利用者同士係わり合いを持っていただけるように働きかけています。利用者同士支えあい、温かみのある暮らしを提供できるように努めています。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話をしたり、家族との良好な関係を継続できるように努めています。サービス利用終了後も相談や必要な支援でできるように心がけています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を大切にしてコミュニケーションを密にとり、希望や意向をお聞きしています。困難な状況が解決できない場合は本人の立場に立って支援をしています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より馴染みの暮らしや、好きな食べ物・服装等様々なことを伺い、安心して笑顔のある生活をしていただける様に努めています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの過ごし方について職員全員で考え、カンファレンスやミーティングで話し合いを行い、毎日の体調状態を観察することで、個々にあったケアを行い、本人のペースに合わせるようにしています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向や希望を聞くことで日々のカンファレンスの中で職員間で話し合い、できない事よりもできる事の可能性を重要視して介護計画を作成し実施しています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化により介護計画を見直し、小さな状態の変化などの話し合いを行っています。現状に合う3ヶ月毎に見直しを行い統一した介助ができるようにしています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送りや個人記録を、介護計画に反映させている。具体的な情報の共有ができるようにコミュニケーションも密にとっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携医以外の受診は原則として家族にお願いし、緊急時に家族の送迎が不可能な場合はホームで対応している。入院時には入居者へのお見舞いを欠かさないように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署協力にて年2回の避難誘導訓練と、ボランティアによる施設の訪問がある事でグループホームを認識していただいている。地域の一員として小学校を訪問、子供110番に加入これを機会に、地域資源を活用して支援をしていきたい。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、口腔ケア・鍼灸マッサージなどの利用ができるように支援しています。また、他の施設の方やケアマネジャーの方と話し合う機会を設け、より良いサービスの提供ができるために意見交換をしています。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターより参加をしていただき、色々な情報を職員や家族に発信していただいています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	医療連携体制加算を検討中。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じ、自分でお金を管理し買い物 の希望があれば職員と共に買い物に出かけ楽しんで いる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食・喫茶店・買い物・散歩・畑仕事等、利用者の希望にそった支援をしている。職員と共に買い物があるときは近所のスーパーへ出かけることもある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	河川環境楽園・138タワー・犬山リトルワールド・初詣など希望を取り入れた支援をしている。定期的にお花見等入居者の希望を取り入れて家族とも一緒に出かけられる機会を検討している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の中には、居室に電話を引いている方もいる。電話や手紙のやり取りができるよう支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、友人など気軽に訪問できるような環境を整え、居心地よく過ごせるように工夫をしています。家族の都合の良い時間帯の来訪があります。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となるケアをしない事を熟知して、利用者が安心して、安全な暮らしができるように職員間で統一ケアができるよう取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>入居前に日常生活におけるリスクについて必ず個々の家族に説明している。本人にとって暮らしやすい環境を大切に、病気進行に伴うリスクには医療機関と連携を蜜に取り、本人や家族の意向を大切にしている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>日々の係わり合いにより、表情や行動・顔色の変化に気づき、早期発見へとつながる様に努めています。バイタルサインは毎日チェックを行い情報が共有できるように、報告・連絡・相談の徹底をしています。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服薬等の情報を共有し異変に気づいた時には必ず報告をしています。対応に変化がある場合には記録に残し、職員が理解できるように説明をしています。服薬時には薬を利用者の手に渡し、飲み込んだことを確認しています。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘が引き起こす影響を全職員が理解し予防のために1日2回のラジオ体操を取り入れ、腹部マッサージを行っています。水分摂取をこまめに勧めたり、毎日の食事に麦を取り入れなど、繊維質を多く取るよう工夫している。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、歯磨きや口腔ケアを行っている。義歯の方への援助も行い美味しく食べられるように努めています。希望者には週1回、歯科衛生士による口腔ケアの指導を受け実行しています。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>高齢者用の献立表を元に一人ひとりの身体状態に合わせ、ミキサー食・キザミ食・硬さ等工夫している。水分は食事を除いて10摂取を目安として外出や入浴後等こまめに補給に努め支援している。毎月1回の体重測定で前月との増減値を把握している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防対策として外出時は随時手洗い・うがいを励行しています。面会の方には手指の消毒やマスクの着用を進めています。利用者と職員全員がインフルエンザの予防接種を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はその日の分だけ発注し使い切るようにして、賞味期限を厳守している。食器類等は、殺菌効果の高い食器洗浄機を使用している。まな板など塩素系の漂白剤を使用し衛生管理に努めている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の出入り口は親しみやすいように工夫をして、手作りの置物や利用者家族からいただいた花が飾られている。四季折々に利用者が育てている花が道行く人の目を楽しませている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集まるリビングは大き窓を取り入れ日当たりや通気性も良くゆったりくつろげる空間になっている。壁には行事の写真があり、時折思い出話の話題になる。冬季は加湿器を置くことで湿度管理をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ決まったお気に入りの席があり、リビングにてテレビを楽しんだり、職員とのおしゃべりや利用者同士雑談を楽しんでいる。玄関にベンチを配置、廊下にはソファを設置し、居室以外でも一人になれる空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に愛用していた家具や電化製品等は部屋の広さに合わせて自由に持ち込んでいただき居心地よく過ごせるように、利用者や家族の希望を取りいれている。利用者の声をいつでも聞くことができる様に家族が電話を引かれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は毎日掃除の時に空気の入替えをしている。共有空間には換気扇とエアコンが設置され、温度調整は利用者の状態に応じてこまめに調整している。また加湿器を設置湿度にも注意している。空気の乾燥を防ぐためにタオルを濡らして湿度調節に工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あらゆる生活の場面において利用者の自立を促すように働きかけています。壁には手すりを備え付け、動線には歩行をする際に障害物がないように工夫をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に名前を掲げています。トイレ使用中が分かるように利用者自筆の「使用中」がぶら下げている。混乱や不安がある場合は常時支援ができるように努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	構造上の問題で建物の外回りは活動する空間は限られているが、玄関横のプランターには、利用者が育てている花が年中咲いています。玄関にベンチを設置することで、安全に靴が履けるように配慮している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

項目		取組の組織名
職員		総務部
利用者		総務部
利用者		総務部
利用者		総務部
利用者		総務部
利用者		総務部
職員		総務部
通いの		総務部

項	取 組 の 組 み の
運営推	役員
職員	役員
職員か	役員
職員か	役員

【特に力を入れている点・ア